

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194200208		
法人名	社会福祉法人 希望の里		
事業所名	グループホーム つどいの杜 (1階)		
所在地	埼玉県児玉郡美里町白石2319-1		
自己評価作成日	令和3年12月19日	評価結果市町村受理日	令和4年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/11/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和4年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた敷地内に、提携施設の特別養護老人ホーム・グループホーム・サービス付き高齢者住宅が設立されており利用者さま・職員共々交流を深めている。また、職員は施設内の研修だけではなく外部での研修にも参加をし、サービスと知識の向上に役立っている。ホームの建物は、木材を多く使用し清潔に努め、落ち着きとぬくもりを大切にしている。新型コロナウイルス感染症にて外出は中止とはなっているが園庭や1、2階合同にて行事を定期的に行っており役割や楽しみごと、気分転換の支援に力を入れ、職員・利用者とも明るく笑顔があふれる生活が送れるよう、また、地域の中でその人らしい暮らしが続けられるよう、職員一丸となって取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・外出自粛という環境の中、敷地内での散歩や外気浴、畑仕事やみかん狩りを楽しむほか、屋内でもジェスチャーゲームや二人羽織など、レクリエーションで盛り上がるなど、利用者が安全な環境の中、笑顔で楽しい時間を過ごされるよう支援に取り組まれている。  
 ・運営推進会議は、9月まではコロナ禍から書面開催となっていたが、10月より参加メンバーを制限して開催され、有意義な話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かされている。・目標達成計画については、前年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、定期訓練では地震発生を想定し、基本訓練に取り組まれるほか、ライフラインが断たれた場合を想定し、諸器材を準備するなど、取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「職場安全、和気藹々、感謝の心、元気な笑顔」を理念に掲げ、毎朝朝礼にて唱和することで意識を高め、実現に向けて日々取り組んでいる。	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、利用者がその人らしく、安全な環境の中、笑顔で過ごされるようチームケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症のため地域の作品展への出品や近隣小学校への運動会の出席等は中止しています。	コロナ禍の中、限定的であるが、散歩の際に地域の方と挨拶を交わされたり、面会を受けるほか、クリーン活動に参加するなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃活動に参加した時や散歩に出掛けた時等、積極的に挨拶や会話を交わし、理解を得るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの責任者、ご家族、地域の代表者らと意見交換を行い、そこでの意見は職員会議で発表し、全職員でサービス向上に向けた話し合いを持っている。	運営推進会議では、事業所からの利用者の暮らし振りや活動報告のほか、事業所の取り組みについての評価や要望、地域の情報提供を頂くなど、有意義な会議運営をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や申請手続きの時等にコミュニケーションを図り、必要時相談等もしている。町担当者に、日常生活や催し物を通して、利用者の実情を伝えている。	行政の担当者とは運営推進会議でアドバイスを頂くほか、報告・連絡・相談時などでコミュニケーションを図られている。また、マスクや消毒用アルコール等を頂戴したり、困難事例の受け入れなど、良好な連携関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全ベルト、四点柵等身体拘束のないケアを実践している。スピーチロックへの意識も高めている。また、内部研修にて再確認している。玄関の施錠に関しては、全職員が施錠が日常ではないことを意識している。	身体拘束廃止委員会が定期的に行われている。その機会に拘束に関する学びの時間をもち、身体拘束の内容とその弊害を確認、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアを実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないように、日々観察し注意を払っている。また、内部研修にて再確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をいつでも閲覧できる場所に置き、必要に応じて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の内容を詳しく説明すると共に十分に納得をして頂いた上で契約を結んでいる。解約や改定の際も疑問点がないかを尋ね、理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、日常会話の中でさりげなく意見を聞き、改善すべき点は職員会議で検討・協議している。	「外出したい」、「知人に会いたい」など、出来る範囲で利用者の希望に応えられている。家族とは面会時や電話連絡時などで意見・要望を聴き取り、職員間で話し合い、事業所運営やケアに反映をされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務時や、休憩中でも聞く機会を設けている。また、言いやすい環境をつくっている。そして、その意見等を全職員で協議している。	定例会議などで意見・提案を聴きとられている。発言し易い職場環境がつけられ、レクリエーション企画や個別ケア対策など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課表で自己評価・上司の評価・必要であれば話し合いを行い、各自で目標を立てて業務にあたっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はそれぞれで受けられるようにし、研修ファイルを事務所に保管し、いつでも閲覧できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内のグループホームでは交流の機会を設け、勉強会や相互訪問を行い、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能であれば面談をしている。また、本人の望みや不安等を可能な限り聴くようにしたり、本人の意思を尊重している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	直接または電話にて、よく聴く機会をつくり信頼関係を築いている。要望や不安なこと等も積極的に聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の希望を十分に聴き、本人にとって必要なサービスかを見極め対応している。他のサービス利用も含め必要時、情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	単なる介護者と利用者という関係ではなく、時には家族のように接する時もある。また、利用者から学ぶことも多く、人生の先輩として敬う場面も多々ある。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に悩んだり、喜びを分かち合ったり、良い関係を築き、一緒に問題を解決してもらい、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防にて外出は中止や面会の制限はあるが馴染みの深い場所や人との関係は家族を通じ途切れないように支援している。	窓越しでの面会になるが、ご近所の方や知人との時間を持たれている。また、家族の協力を得て、行きつけの美容室に出かけられたり、地元の和菓子店の饅頭を楽しむなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士はそれぞれの居室を自由に行き来でき、孤立しがちな利用者には、無理なく他者と混じれるよう機会をつくりフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて、相談や支援をしている。また、自由に立ち寄れるような付き合いをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望を聴いたり、日常生活の様子から想いの把握に努めている。困難な場合は、家族や職員間でよく協議し検討している。	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、声かけを行い、思いや意向を把握されている。困難な利用者についても、表情や仕草から汲み取るほか、家族からの情報提供を得て、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにおいて本人及び家族から、これまでの生活を細かく聞き取り、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らしぶりや生活歴を踏まえ、生活リズムの把握をし、それをなるべく崩さないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の意見を求め話し合い、作成している。3ヶ月毎のモニタリングで見直しをし、状態変化時には、家族や関係者と相談の上、新たな計画を作成している。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、全職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさを大切に、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の記録に、その日の生活の様子や変化を記録し、その情報を職員間で共有しながら計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて通院や買い物のサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の作品展に出品したり、地域の行事への参加等している。(現在は新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止となっている)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をして頂いている。受診時にはホームでの様子や症状等を医療機関へ連絡している。	利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本とし、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なわれるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携施設や協力病院を協働し、常に利用者が適切な受診や看護を受けられるように、報告・連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や入院先の医療機関とは常に連絡を取り合い、本人の状況を把握するとともに、早期退院できるように話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化に関する指針」をもとに説明と同意をえている。重度化した場合は、早期に家族と話し合いの場を設け方針を決めている。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思確認を進めながら、医師・看護師と連携のもと、重度化や看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「応急手当の基本」をホームで作成し、それに従い対応している。また、急変時に備え「急変時対応の実地研修」を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。提携施設と近隣者には緊急応援隊を依頼している。災害時対応マニュアルを作成し、非常持ち出し品や役割分担などを明確にしている。また、年1回の地震を想定した訓練を実施している。風水害については、内部研修を行っている	定期訓練では地震発生を想定し、身の安全や避難口の確保・火の始末など、基本訓練に取り組まれている。また、一昨年の台風被災時の経験を活かし、停電・断水対策の諸器材を準備するなど、体制整備に取り組まれている。	災害対策には十分取り組まれています。高齢の利用者を預かる事業所として、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、さりげない介助や言葉かけを心掛けている。	排泄介助の際には耳元で小声で声かけするほか、入浴の際には肌をさらさぬよう、バスタオルで身体を覆うなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心やプライバシーへの配慮など、きめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう選ぶ場面を作ったり、自然とできるような雰囲気を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重し、自由に過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ここで自由に楽しんで頂いている。行きつけの理容等や本人の要望に応じて家族の協力も得ている。(新型コロナウイルス感染症予防の観点から外出は中止している)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目でも楽しめるよう色彩を豊かにしたり、季節の食材を採り入れたり、個々の好みに応じた献立にしている。準備や片づけは可能な限り手伝って頂いている。	母の日には手打ちうどんに天ぷら、父の日には海鮮丼や天丼、季節の良い時期には庭で食事を楽しめるほか、地元和菓子店の名物饅頭が提供されるなど、食の楽しみを大切にした支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は提携施設の管理栄養士が作成し、摂取量は、毎食個々にチェックしている。個々の状態に合わせて、刻みやとろみをつけたり、時間帯等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯の方には歯磨きを、義歯の方にはうがいや歯磨きを毎食後促している。義歯は毎夕食後に回収し消毒・洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、個々に合わせた排泄チェックをしている。おむつ使用については、職員・家族・本人と相談をし、よく見極めてから使用している。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄など、自立にむけた支援が行われている。利用者個々に事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減やおムツ類の使用量削減に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便チェックをしている。また、水分や野菜の摂取を促し、毎日歩行運動も行っている。個々に応じて、腹部マッサージや便秘薬の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は設定しているが、希望が出た場合は、希望に応じられるよう検討・対応している。ゆず湯やしょうぶ湯、季節の入浴剤で工夫している。	利用者の状況や希望に応じて柔軟に対応されている。現在の利用者の状況から一部湯船につかることは出来ず、シャワー浴となっているが、ヒートショック対策や職員複数での介助など、安全で安心な支援体制のもと入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方には、日中の活動レベルをあげたり、何度も起きてしまう方には個別に対応し、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに処方箋を置き、いつでも確認できるようになっている。内服薬変更時には、連絡ノートを使用し職員間情報を共有している。また、医師の指示通りに服薬を行い、症状の確認は常に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族との会話や情報提供票から生活歴等を把握し、その方が得意とするものを生活に取り入れ、楽しみが行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防の観点から外出中止しているが法人内の散歩を日課としているほか、外気浴にて季節の花々やみかん狩りを通し季節を感じて頂いている。	コロナ禍の中、自粛されているが、自然豊かな環境を活かし、敷地内での散歩や外気浴、花見やみかん狩りのほか、畑仕事を楽しむなど、外気に触れる機会を持つよう支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に本人及びその家族に了承を得て、ホームにて一括管理している。その方の力量に応じて、金銭管理を任せる場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、電話利用の介助や手紙の投函等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カウンター式キッチンのため、ホールにいれば家事の様子が伺え、匂いも感じることが出来る。玄関、廊下、ホールには季節の草花を飾る等、安らげる空間作りをしている。また各居室やホールには温湿度計が設置されており、いつも快適に過ごせる様室温調節をしている。	共用スペースには干支の虎のポスターと大判のカレンダーが飾られている。華美に飾ることなく、家庭的で落ち着いた装飾になっている。また、ソファが各所に置かれ、ゆっくり寛げるよう配慮されているほか、居室を含め、毎朝、掃除・換気・消毒を行うなど、清潔維持と感染症対策に取り組まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にあるソファで利用者同士が話をしたり、くつろいでいる。各居室の他には一人で過ごせる場所はない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが、なるべく使い慣れた家具を持ち込んでいただき、入居前の生活環境に近づけるよう努めている。	馴染みの寝具や筆筒、アルバムや好みの書籍、好きなテレビなどが持ち込まれ、居心地良く、落ち着いて過ごされるよう工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症が重度であっても、なるべく混乱なく自立した生活が送れるよう、分かりやすく目印をつけたり、さりげなく介助したり工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームつどいの杜

作成日: 令和 4年 3月 20日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時において、いかなることが起きても対応できるよう全職員が準備をしておく。	全職員が、様々な場面や利用者様のレベルに応じた対応が落ち着いてできるようになる。	・訓練や研修の内容を工夫し、職員の意識の向上につなげる。 ・新人職員においては、入職して早い段階で研修を行う。 ・定期的にマニュアルの見直しをする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。